



肺炎球菌ワクチン(ニューモバックス)についての説明

静岡県立こども病院 予防接種センター

1)肺炎球菌感染症

名前の通り肺炎を引き起こすことが多いのですが、それ以外にも髄膜炎や敗血症など重篤な感染症の原因となります。高齢者や血液・免疫系の基礎疾患があると重症化しやすいことが知られています。中耳炎、副鼻腔炎や気管支炎の原因菌としても重要です。抗菌薬の効きにくい耐性菌が増えつつあります。

2)予防接種の効果

1 回の接種でワクチンに含まれる種類による肺炎球菌感染症を 5 年以上予防する効果が期待できます。抗菌薬の効きにくい耐性菌の感染に対しても予防効果があります。

乳幼児への免疫効果は弱いので、低年齢児には小児用肺炎球菌ワクチンを使用します。

3)肺炎球菌ワクチンの特徴

80 種類以上ある肺炎球菌の中で、感染症を引き起こす危険性の高い 23 種類の菌を選び、それぞれの菌から免疫をつけるのに役立つ成分を抽出精製して混合した不活化ワクチンです。小児用肺炎球菌のような免疫効果を高めるような処理は行っていません。

4)ワクチン接種上の注意点

2 歳以上で、重篤な肺炎球菌感染が発生しやすい基礎疾患をもつ児に接種します。2 歳未満の児は、接種しても効果が期待できないので接種しません。

5)接種の量・回数

2 歳以上の児に、1 回 0.5ml を皮下注射します。通常は 1 回のみ接種ですが、必要であれば 5 年程度あけて再接種します。

6)副反応

注射局所の発赤、腫れ、痛みが見られる程度であり、発熱など全身的な反応はまれです。

7)接種後の注意

ワクチン接種後 30 分間は院内にとどまり、様子を観察して下さい。接種部位の腫脹、体の発疹、じんましん、気分不良、嘔吐、咳や呼吸困難などの症状が見られたら、直ちに接種した医師か看護師に声をかけて下さい。この間に全く異常が見られなければ看護師にその旨、一声かけて帰宅して下さい。

8)帰宅後の注意

激しい運動はさけて下さい。その他はいつも通りの生活を送ることができます。入浴もさしつかえありませんが、注射した部位をこすらないで下さい。